

令和3年度 第2回デ活シンポジウム

「プロジェクト最終年度のデ活が伝えたいこと（その2）」

日時：令和3年12月20日（月）15:00～17:00

場所：Web 開催

あいさつ

鎌田 俊彦（文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課長）

文部科学省地震・防災研究課長の鎌田です。令和3年度第2回デ活シンポジウムの開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。本日は、ご多忙の折にもかかわらず、多数の皆さま方にご参加いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

平成23年3月の東日本大震災から本年度で10年が経過しましたが、わが国においては、このような大規模な地震・津波災害に限らず、昨今では台風・豪雨等の気象災害等についても、広域化や激甚化が懸念されています。

平成29年に開始した首都圏レジリエンス総合力向上プロジェクトは、本年度で最終年度となります。本年は首都圏で10月に最大震度5強の地震が発生したほか、東京都において首都直下地震の被害想定を見直す方針が示されるなど、災害に対する社会的関心が高まっています。本プロジェクトのこれまでの取り組みを多くの皆さま方と共有していくことは、とても重要なことであると認識しています。

本プロジェクトにおいては、自然災害に対し社会がどのように対応するべきかについて、社会科学・理学・工学の研究を産学官民が力を合わせて行い、首都圏のレジリエンスを高めることを目的としてこれまで研究開発を進めてきたほか、データ活用協議会を中心に、産官学民が保有するデータの統合的利用による新たな知見が創出されるなど、国民の防災行動等に役立つ社会の実現が少しずつ進みつつあると承知しています。政府においても本年9月1日にデジタル庁が発足するなど、デジタル社会の実現に向けた政策が推進されています。防災分野についても、デジタル化に対応した災害対応のDX化や迅速な防災情報の共有など、本プロジェクトの成果を生かした進展が期待されるところです。

本日のシンポジウムが、これまでの取り組みと今後のビジョンを共有する機会として、首都圏のみならず、わが国全体のレジリエンス向上につながることを期待しています。

最後になりましたが、本日のシンポジウム開催にご尽力いただいた皆さまをはじめ、本プロジェクトの推進にご協力いただいている各団体の皆さまに感謝を申し上げますとともに、本日のシンポジウムにおいて有意義な議論が行われることを祈念し、私からのあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしく申し上げます。